

CFC 中国古紙市況調査報告書

出張先：中国（上海、浙江省、江蘇省）

日程：2009年10月11日～14日

訪問先：
・浙江省富陽市古紙市場
・浙江景興紙業股份有限公司
・上海市リサイクル業者
・理文造紙有限公司

参加者：株式会社石川マテリアル	石川 喜一郎
一宮紙原料株式会社	国本 実
株式会社宮崎	岡崎 太司
北勢商事株式会社	横地 弘道
河村商事株式会社	水野 武士
グリーンリメイク株式会社	神山 靖規
名古屋紙業株式会社	中村 和義
有限会社村松商店	村松 潤一
株式会社井土商店	井土 孝一
グリーンリメイク株式会社	神山 千郷
水谷製紙原料株式会社	水谷 浩輝
株式会社金光	金光 相雲
美濃製紙原料株式会社	中村 幸浩
住商紙パルプ株式会社	鈴木 義之
住商紙パルプ株式会社	中道 徹
上海住友商事有限公司	錢 明

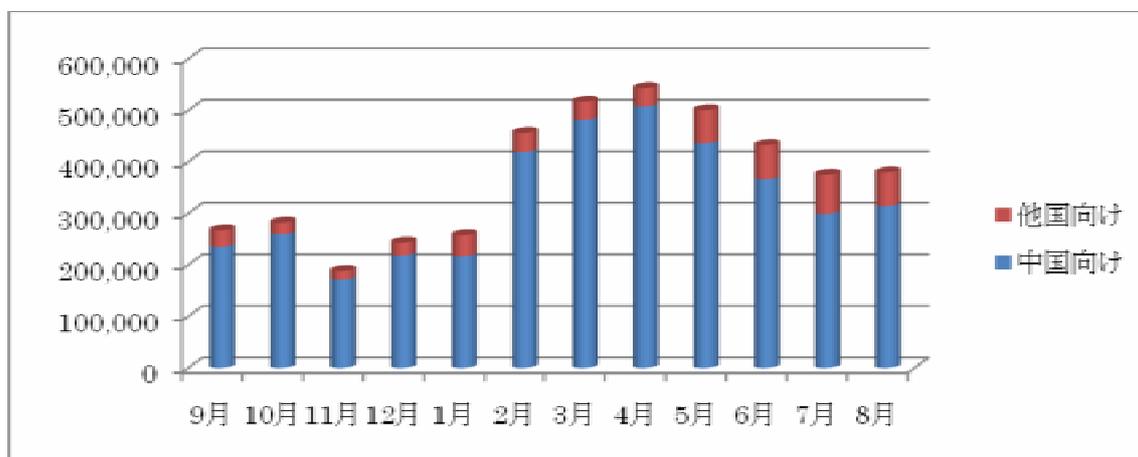
《今回の調査目的》

世界同時不況に突入して一年。古紙を含む紙パ業界も未曾有の不況を迎え、日本国内メーカーも減産継続状態から抜け出せない。古紙発生も低調とはいえ、メーカーの稼働状況も不振を極め、古紙の輸出依存度は以前にも増して大きくなっている。反面、中国の製紙メーカーは中国政府の内需振興策を梃子に昨年末からの極度の不振から一歩抜け出した。

今回の視察の目的は、その後順調に回復しつつあるように見える中国の製紙メーカー、および中国国内古紙事情を現地調査することである。行き先は、我国からの中国向け古紙輸出先の主要地域、主に上海を中心とする華東地区である。富陽－上海エリアにおける古紙回収とその市場の現状と変化、そして世界最大規模の紙・板紙生産設備を有する大手紙・板紙メーカーを往訪し、古紙の集荷方法および使用、生産状況について調査する。

《日本古紙輸出推移》

	仕向地	2008年				2009年							
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
TTL	総量	267,062	281,966	188,400	243,664	257,914	456,742	517,538	543,423	501,026	432,579	375,395	379,867
	中国向け	235,716	260,104	171,918	218,632	217,210	419,447	482,044	508,099	436,619	366,966	299,154	314,901
	中国%	88%	92%	91%	90%	84%	92%	93%	93%	87%	85%	80%	83%
OCC	総量	125,855	119,309	93,068	125,966	138,596	214,375	252,432	241,797	225,689	190,616	187,204	211,258
	中国向け	113,638	110,049	88,633	110,001	107,921	185,941	227,238	230,077	186,418	148,772	136,675	161,331
	中国%	90%	92%	95%	87%	78%	87%	90%	95%	83%	78%	73%	76%
ONP	総量	30,734	29,946	17,731	30,311	29,597	75,525	78,706	80,139	68,602	54,099	39,617	37,991
	中国向け	26,348	27,998	14,175	27,421	25,646	74,229	76,544	74,623	60,194	45,718	32,193	34,860
	中国%	86%	93%	80%	90%	87%	98%	97%	93%	88%	85%	81%	92%
MIX	総量	65,398	73,933	46,026	50,587	49,211	105,910	119,275	135,579	129,694	120,940	86,508	75,864
	中国向け	60,922	72,214	44,761	49,919	47,694	104,459	118,042	132,776	126,372	116,087	82,543	74,190
	中国%	93%	98%	97%	99%	97%	99%	99%	98%	97%	96%	95%	98%



《訪問先別詳細》 1元≒13.30円

① 富陽古紙市場

【所在地】浙江省杭州市富陽市



古紙市場に向かう車両



古紙市場の入口



入口上部の看板



入口で計量し入場料を支払う



交渉を待つ車両の群れ



バイヤー（女性多い）と交渉



隣の建物の外壁にはプレス機の広告

- ・ 市場関係者に対し、2008 年後半の世界経済危機以降、中国国内でも日本と同じように古紙の発生が減っているのかどうかを聴取した。
- ・ 古紙発生量、市場に集まる車の台数、買い手側の人数等は上記の期間後でも変化はないとのこと。今回は国慶節明けで、市場もその期間休日だったこともあり、古紙は多少余剰気味であった。しかし、需要と供給のバランスは値段での調整ではなく、回収量の調整で行なうとのこと、不必要な分は集めないという中国の集荷体制と日本の違いを認識した。
- ・ 取引形態：市場は国慶節以外の期間は基本的に休みなしで、年中開設されている。持ち込み業者は、バイヤーと仮契約して工場に持ち込み、水分や異物などで再交渉を行う為、効率はあまり良くない印象。交渉が難航し、荷を捌くことができなければ、翌日に持ち越されることもあるという。多い日には 1,000 台/日の車の出入りがあるとのこと。また、古紙を積んだトラックは、重量に応じて入場料を取られる仕組みであった。
- ・ 同市場での古紙価格（工場着値/t）

《バイヤーへのオファー価格》	《実勢の成約価格》
OCC ; 1,000-1,200 元 (13.30-16.00 円/kg)	700-800 元 (9.30-10.60 円/kg)
ONP ; 1,300-1,500 元 (17.30-20.00 円/kg)	1,300-1,400 元 (17.30-18.60 円/kg)

2008 年夏場には OCC ; 1,800 元 (24.00 円/kg) 程度まで高騰したとのこと。

② 浙江景興紙業股份有限公司

【所在地】浙江省平湖市

【先方面談参加者】Wang Zhiming 氏、Tang Jinjun 氏

【生產品目】段ボール原紙/中芯原紙 年産約 80 万トン

(内訳：ライナー60万トン、中芯12万トン、白板8万トン)

【取扱古紙数量】約 6 万～7 万トン/月、段ボール古紙メイン、その他 雑誌古紙、新聞古紙

(米国品 40%・日本品 40%・自国品 20%・欧州品はほぼゼロ)

【古紙在庫】通常は約 3 万トン前後で推移。



正門前にて集合写真



エントランス



副総経理 Wang Zhiming 氏(左から二人目)



古紙置き場(旧工場分 3 万 t)



中国国内のプレス品（プラ少量混入）



国内プレスの紐の結び目



日本からの輸入古紙の荷下ろし



白ライナー新工場の建設現場

- ・ 会社概要：浙江省平湖市にある浙江景興紙業股分有限公司付近に、浙江景興日紙有限公司が設立され、景興紙業の新工場として稼働しており、運営は景興紙業が行なっている。従い、両社を“景興紙業”ということとする。新工場では同社は資本金 19 億円で、日本製紙、日本紙パルプ商事、浙江景興紙業集団造紙の 3 社による合弁会社。
- ・ マシン設備について：3 ラインの段原紙マシンを持ち、生産量 08 年度は約 66 万トン/年であった。市況下落中のため自主的に減産を行っているが、キャパシティは約 80 万トン/年程度。景興紙業はかねてより 100 万トン/年規模のメーカーになることを目指していたが、計画通り 2010 年 3 月頃には年産 20 万トンの白ライナーを新しく稼働させる為、目標であった生産キャパシティ 100 万トン/年を達成する見込み。（当初は、60 万/年のライナーマシン増設計画もあったが、景気悪化の影響から中止となった模様。）
- ・ 日本産/国内産古紙：日本産古紙については、選別が比較的良くされている為に使用しやすく、決済条件も一般的に L/C90days となっており、支払サイトが長いことから、継続的に使用していきたいものの、値段が高騰しやすく、繊維も比較的短い為に依存度を低

くせざるを得ないとのことだった。一方で国産古紙は品質も改善されてきており、モノによっては日本産古紙より高品質なものもあるとのこと。ただし、多くの国内古紙は品質レベルが一定ではない為、比率は増やしにくい状況にある。また、国内産古紙は、古紙業者 10-20 社 (5,000~10,000t クラス) から購入しているが、昨年 11 月以降は①金融危機で中小メーカーが倒産②大手メーカーが 2-30%の減産を行なっていることから、在庫も多く、古紙の余剰感があり、トレーダーが回収者からの購入を減らしている為、回収業者は集荷しなくなってきたとのことであった。(回収業者は古紙販売が低迷する時は回収作業を行わない傾向がある。)

- ・ 製品関連：原料価格（古紙/パルプ）の上昇により徐々に製品価格は上がっているが、上げ幅は想定していた程ではなく、メーカーの利幅は未だ小さいままとのこと。製品の大幅値上げを見込んでいた為、原料価格は多少高くても仕入れていたメーカーにとっては誤算だったとのこと。製品価格はグレードごとで異なるもののライナーで 3,200~3,300 元/t (42~44 円/kg) 程度。
- ・ 古紙の国際市況：当社の購入古紙価格は他メーカーより品質が厳しい分、やや高いとのこと。OCC ; 1,200 元/t (16.00 円/kg) 程度。今後、中国在メーカーは輸入古紙価格が高い時には、古紙在庫が底をつき切羽詰らないと買いたがらない傾向が強くなるだろうとのこと。同時に、ある程度の古紙在庫を持っているメーカーが買い止めを行なうことが頻繁に起こり、市況の動きが大きくなる可能性があること指摘していた。ただし、概ね古紙市況はパルプ市況に比してそれほど強くはならないと見込んでいるとのこと。

③ 上海市廃品回収業者

【所在地】 上海市内



上海万博会場予定地



上海市内のリサイクルボックス



廃品回収業者の敷地内



路上を行く持込業者



持ち込みは引きも切らない



リヤカーごと計量



中華鍋などの計量



持込業者と管理者



出荷時の積み込み



市民の生活と密着している

・上海市では **2008年6月**よりレジ袋の有料化が始まり、市民の環境に対する意識も高まっている。上海万博も来年に控え、中心街の整備、美化は著しい。上海市内の街中、オリンピック会場建設予定地近くに所在。頭上に架橋を臨む昔ながらの町並みの一角に佇む。近日中に立ち退きの対象。このような業者も時代に合わせ、形を変えていくのだろう。

・古紙、鉄屑、非鉄、廃プラなど雑多な再資源をリヤカーなどで持ち込んでいた。ヤード内は一見無秩序な状態に見えるが、皆さも当然と言った如く入れ替わり立ち替わり荷下ろししていく。**3種類**の秤で計量し、現金渡し。出荷は**1日4車**程度。(鉄・非鉄**2車**、古紙**2車**) 当然、手積みで**1車**満杯。

持込価格(kg 当たり)	上海市内の最低賃金	1,000 元/月 (13,300 円)
段ボール	0.7 元 (9.30 円)	新聞 1.0 元 (13.30 円)
雑誌	0.9 元 (12.00 円)	鉄屑 2.0 元 (26.60 円)
塩ビ	2.0 元 (26.60 円)	廃プラ 3.0 元 (40.00 円)

④ 江蘇理文造紙（常熟工場）

【所在地】江蘇省常熟（=Changshu）市 2002年設立、2004年稼働開始。

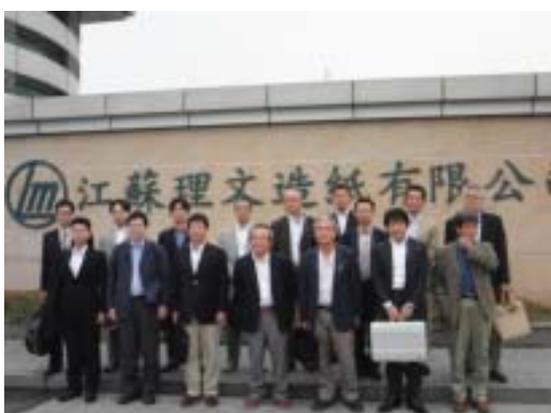
【先方面談参加者】Tony Ho 氏 Tom Dong 氏

【工場面積】約 65 万㎡、約 197 千坪

【生產品目】段ボール原紙/中芯原紙 年産約 130 万トン

【マシン設備】4 台設置

【取扱古紙数量】：約 10 万～15 万トン/月、段ボール古紙メイン、その他 雑誌古紙、新聞古紙原料の原料比率は 90%以上



正門前にて集合写真



高級経理 Tony Ho 氏(左端)



古紙のコンテナ在庫



古紙のプレス在庫

- ・マシン設備について：常熟工場のキャパシティについては、04年稼働開始の5号機は25万トン/年（外装ライナー）、6号機は35万トン/年（中芯原紙）、07年稼働開始の8号機は35万トン/年、10号機は33万トン/年（共に外装ライナー）となっており、合計の生産設備は約130万トンである。更に将来的には70万トン/年程度の2ラインの増設計画

もあるとのことであった。

- ・古紙関連：同社は段ボール古紙をメインに使用しており、古紙を中心に石炭等を輸入する為の広大な専用港を持っている。さらには、通関設備等も完備され、スムーズな通関処理が可能となっているとのこと。往訪時の在庫は約3ヶ月分あるとのことであったが、ストックされたコンテナだけで常時4,000～5,000本以上はあるとのこと、約10万トン弱程度（＝約1ヶ月分に相当か。）は古紙在庫が常時あるものと予測できる。同社の産地別古紙使用比率は、米国産80%、欧州産5-10%、国内産5%であり、日本産は価格が合わず、使用は少ないとのことであった。同社は今後、国内古紙の比率も増やしていく意向。
- ・製品関連：同社は上述の通り外装ライナーが約60%、中芯原紙が約40%の生産割合となっており、外装ライナーの種類も5グレード、坪量も120-250グラムと幅広く、顧客の要望に合わせた生産が可能となっているとのこと。中芯原紙も同様に、少量の白ボールも生産しているとのことであった。直近の工場稼働率は100%とのこと減産もしていないが、来年の万博後は、国内市場の伸びは鈍化すると予測しているとのこと、現在の中国国内向け販売中心から今後は日本を含む海外向けに拡販することが目標とのことであった。（日本向け輸出は約200～1,000トン/月程度とのこと。）2009年10月の製品価格はグレードごとで異なるもののライナーで3,300円/t（44円/kg）、中芯で2,800円/t（37円/kg）、白ライナーで3,900円/t（52円/kg）程度であり、9月比で100円/t（1.33円/kg）程度値上げしたとのこと。

《総括》

我々問屋各社が供給している原料は、中国のみならず世界各国へ供給される紙や板紙の一部となっていることを改めて感じ、日本を始めとする世界各国に、紙・板紙製品を輸出する為の高い競争力が中国在メーカーに存在していることを肌で感じた視察であった。また、今まで問屋各社においては、輸出玉については品質が多少悪いものでも出荷しても問題ないものという認識であったが、中国メーカーが世界進出を計画している現在、輸出玉の品質向上も今後は重要な要素となると考えられ、意識の改変が必要であると感じた。

これからも、古紙を原料とする中国の製紙メーカーの存在は我々問屋各社にとっては、必要不可欠な存在であり、大手需要家である先方の動向を注意深く見守ってゆくと共に、引き続き良好な関係を構築する努力が必要と考える。

以上